

現地視察調査の概要

平成 29 年度 みんなで支える森林づくり上伊那地域会議（第 2 回）

- [日 時] 平成 29 年 10 月 17 日（木） 13：00～17：30
- [場 所] 伊那合同庁舎集合 現地
- [出席者] 武田座長、唐澤委員、小林委員、高山委員、橋本委員、平澤委員、森委員（10 名中 7 名出席）
- [事務局] 地域振興局長(挨拶のみ)、林務課長、林務課各係長ほか

【現地視察調査】（※ ◇：委員の質問・意見、→：事務局等の回答）

□ ① 伊那市長谷 浦団地の搬出間伐について

（事務局）：浦団地の概要を現地視察調査資料 P 4 で説明

- ・ 現在、搬出間伐を実施中の団地で、施業の工程や実施状況を確認。
- ・ 高性能林業機械の使用に空きができたため、資料の搬出システムを一部変更して途中からプロセッサを導入し作業効率をアップした。
- ・ プロセッサ造材及びフォワーダの荷卸しを見学

◇ プロセッサは、どのくらいの太さまで造材できますか。

→ この機械だと直径 30 センチ程度までは可能です。

◇ この現場で地主にいくら返せますか。

→ おおよそ 1 ヘクタールあたり 2 万円程度です。

◇ 団地化を進める始まりは誰が決めるのですか。

→ 所有者からの依頼の場合もありますが、この場所は事業主体が事業の出来そうなエリアの団地化を計画して集約化を始めました。

◇ 道を開けられない等の価値の無い山はどうしていますか。

→ 全く手を付けない所、治山的な整備の必要な所、林業経営を行う所など、分けて事業を実施しています。

◇ 所有者は何人で、所有者の持ち出しはありますか。実施期間は何時までですか。

→ この団地の所有者は 100 名以上で、所有者の持ち出しはありません。7 月上旬から 11 月まで行います。

◇ 現場で働いている方が若くてびっくりしています。この仕事好きですか。

→ 知人から話を聞いてこの世界に入りました。最初は大変でしたが、現場の施業が終わった時に達成感があり、やりがいを感じています。

□ ② 伊那市長谷 栗沢団地の里山整備事業について

(事務局)：栗沢団地の事業概要を現地視察調査資料P 5で説明

(前日の雨で林道の路面状況が悪く現地に入れなかったため、休憩地で説明)

- ・ 平成 27 年度で「地域で進める集約化里山集約化事業」を、平成 28 年度に「みんなで支える里山整備事業」で間伐と一部材の搬出を行っている。

◇ 木材の運賃はどうしていますか。

→ 木材の売り上げで運賃も賄えています。

□ ③ 伊那市 信州の木活用モデル地域支援事業について

(事務局)：「伊那谷アライアンス」の木の香り漂う街並みづくりモデルの取組みについて概要を現地視察調査資料P 6で説明

- ・ 「伊那谷アライアンス」：伊那市街の商店街を活性化したいと集まった方が組織。
- ・ 空き家や空き店舗を伊那谷の木材を使ってリノベーションして、古本屋やシェアハウスとして活用

【シェアハウスの視察調査】

- ・ 床はアカマツ、壁・天井はサワラで、本来使われないC材以下の木材を加工して使っています。本来なら燃やされるしか価値のないものにデザインと役割を与えることで、林業従事者や森に携わる人に小さな副収入を生み出すことができる。その意味では付加価値を付けることができたと思っている。

また、オール無垢でアカマツの「節」「あお」をあえて使って見せている新しいデザインを提案している。「あお」で価値が下がるのではなく、価値を認める人に提供できる。

- ・ 床材を加工した時の端材をさらに使って、小物としての活用もワークショップを行って提案してきた。

◇ 塗装はしてありますか。

→ 塗っていません。

◇ 原木は現場で調達したのですか。

→ 森林整備団体さんから余っている端材を調達して、製材屋さんに持ち込んだり、大工さんが加工して材料としました。

◇ 家賃はいくらくらいですか。

→ 2階に4部屋あって、広さによって19,000円/月から24,000円/月です。光熱費は住人でシェアしてもらいます。

共用部分は貸し出していきますが、今後の使い方は地域の皆さんで考えていただきます。今は、小さなヨガの団体やワークショップに活用いただいています。

◇ 補助金を活用して作った施設をどのように活かしていくかが課題ですね。

→ 先日、関わったボランティアの方々に開放デーとして活用いただき好評でした。今後の様々な活用を考えていきたいと思います。

【前回会議の宿題等】

1 上伊那管内全体の松くい虫対策事業について

(事務局)：その他資料P1により、管内で実施している全事業について説明。

◇ 特別防除とはなんですか。

→ 有人ヘリによる空中散布です。

2 平成28年度里山活用推進リーダー育成事業について

(事務局)：その他資料P2により、里山のマツタケ生産振興に活用する人材育成の事業効果を含めて説明。

◇ 購入した道具等の管理はどうするのですか。

→ 事業主体が育成したリーダーの行う活動に貸し出していくこととしています。

◇ 講師の報償費が高いように思いますがどうですか。

→ 関わる時間的にも適正な金額と判断されます。

◇ ・ 里山整備の機運が高まって、整備が広がっていけばいいですね。

・ 辰野町以外でも、アカマツがあれば環境整備ができますよね。

・ マツタケができればいいですね。辰野町の小野や川島のマツタケは、香りと味が非常に良いと評判です。

→ 他の地域でもできますし、マツタケも早ければ5年くらいで出始めることもあります。

◇ 辰野町は松くい虫の被害はどうなっていますか。

→ 松枯れは散発的にでていますが、被害地域にはなっていません。町単費で枯木の処理はしていただいているところです。

◇ 松くい虫の被害は、高いところは大丈夫と聞きますがどうですか。

→ 標高800m以上は大丈夫ということですが、標高が高いところで生息できるカミキリムシが線虫を媒介できる可能性があるという話もでてきているので、心配もあります。

◇ 松くい虫防除のための空中散布は、マツタケに悪影響があるのでやめてほしいという話もありますが、松を守る意味では矛盾していると思います。

→ 空中散布は、水、土、生き物等に対してどんな影響があるのかということは調べていますし、尚且つ地域の合意形成が得られたところで実施しています。地域での理解が得られなければ実施はしていません。

3 森林税のPRについて

(事務局)： その他資料P3により、9月28日の「週刊いな」に木育事業を中心に記事を掲載したことと、5年間継続して様々な税活用事業の記事を掲載してPRしてきたことを説明。

4 森林税の今後の基本方針（案）について

（事務局）： その他資料P4により、「長野県森林づくり県民税に関する基本方針（案）」について、パブリックコメントを求めていることを説明。

（既に「長野県森林づくり県民税に関する基本方針（案）」は委員に送付済み）

◇ 本日は、良くやっていることが分かってもらえたと思います。もし、新しい森林税が始まったら、ワンランクアップしたものにしてほしい。（座長）

◇ 本日は、現地を見て、非常に参考となりました。

先日の森林税の説明会にも参加させていただきましたが、県からの説明もあり、聞いていた住民・事業者からも様々な意見が出ていましたので、そういう意見を積み上げて、使いやすいだけでなく有効に活用いただきたい。

以上 現地解散